

工系3学院学生国際交流基金プログラム

帰国報告書

派遣者氏名: 河鱒 康平	
所属・研究室・学年:環境・社会理工学院 融合理工学系 齊藤滋規研究室 修士2年	
派遣先大学・専攻:マドリード工科大学 itdUPM	
受入研究室・教員名:itdUPM Carlos Mataix	
派遣期間: 2019年9月6日～2019年11月30日	
申請カテゴリー: <input checked="" type="checkbox"/> (C1)SERP <input type="checkbox"/> (C2)AOTULE <input type="checkbox"/> (C3-a)部局間協定校 <input type="checkbox"/> (C3-b)全学協定校 <input type="checkbox"/> (C4)その他	
研究(プロジェクト)題目: Comparative study about itdUPM and Japanese SDG organizations	

- A) 帰国後1か月以内に工系国際連携室宛 (ko.intl@jim.titech.ac.jp) にMS Wordファイルにて提出ください。
- B) SERP・AOTULEで派遣された場合は、受入教員の評価書も添付して下さい。
- C) この表紙を含まず、ページ数は2～4ページ、ファイルサイズは3MB以内としてください。
- D) 研究室や宿舎内の様子の写真、図表、イラスト、滞在中のその他の写真などは挿入可です。ただし、それらを掲載する際には簡単な説明を加えて下さい。
- E) 提出された報告書の2ページ目以降を工系のホームページに掲載いたします。また、別途、学内広報誌「東工大クロニクル」の執筆をお願いすることがあります。

報告書必須記載事項

1. 派遣大学の概要(所在地、創立、規模など)
2. 留学準備など(就職活動、修士・博士論文などとの兼ね合いを含め、修了までの計画をどう立てたか、留学先大学の指導教員/所属研究室の見つけ方、ビザ取得有無など)
3. 所属研究室での研究概要とその経過や成果、課題など
4. 所属研究室内外の活動・体験(日常生活・余暇に行った事など)
5. 留学先での住居(寮、ホームステイ等)、探し方、申し込み方法、ルームメイトなど)
6. 留学費用(渡航費、生活費、住居費、保険料)など
7. 今回の留学から得られたもの、後輩へのメッセージ、感想、意見、要望
8. その他 *任意 (留学先で困ったこと/帰国後の進路(就職・進学・長期留学))

東京工業大学 工系3学院学生国際交流基金
帰国報告書

派遣年月:2019年9月~11月

氏 名:河鱒 康平

所 属:環境・社会理工学院 融合理工学系

派 遣 先:マドリード大学

(次ページ以降に記入してください。)

1. Universidad Politécnica de Madrid について

Universidad Politécnica de Madrid (通称 UPM) はスペインの首都マドリードの中心部にある理工系大学である。18 世紀に開校した工学と建築学を専門とするふたつの技術学校として 1971 年に合併して開校した。学生総数は 35,000 人であり、エラスムプログラム等を活用した欧州圏の他国の学生も多く在籍している。90 の大学とダブルディグリープログラムを運営するなど、国際化に積極的に取り組んでいる。



Fig.1 Madrid の位置



Fig.2 UPM にある itdUPM

2. 留学準備

私の研究室では、留学に行くの文化や留学先のコネクションがなかったため、10 月ごろにまずは漠然と留学に行きたいという意思を持って工系国際連携室に通い始めました。留学先の大学の決め方として、①英語要件のレベル ②やりたい研究の有無 ③滞在国の魅力を軸とした。結果として第一志望にマドリード工科大学、第二志望に香港科技大学を選択した。11 月ごろに担当教授へ留学に行きたい旨を伝え、SERP に応募した。1 月下旬に UPM への留学が決定した。2 月中旬ごろに受け入れ先が決定したものの、留学開始時期が 9 月であったこともありしばらくは連絡の頻度が低かった。研究室の特性上、事前にアクションすることは重要でなかったため、渡航前においても打ち合わせ等は無く、現地に到着してから研究をスタートした。特別なビザは取らず、シェンゲンビザ（90 日以内の滞在なら特別なビザ無しで滞在できるもの）の範囲で滞在をすることにした。理由としては、修士 2 年での留学であり、帰国後に早急に修士論文に取り掛かる必要があり、余分な滞在が出来ない環境にあったためである。補足情報にも記載しているが、基本的にはビザを取得して滞在した方がよい。飛行機のチケットや保険の加入は 7 月ごろに行った。スペインは学生寮がない（高級住宅地に留学生用の高額な学生寮はある）文化であるため、先方から送られてきた家探しサイトを使用して探したが、短期間の滞在のため全て拒否された。9 月は学校等の年度初めであるため家探しは苦労するため早めに行動した方がよい。私は数日分のドミトリーの予約を取って出国した。

3. 所属研究室での研究概要とその経過や成果、課題など

[研究テーマ]

comparative study about itdUPM and Japanese SDG organizations

[研究概要]

itdUPM の活動を学び、日本国内の SDGs 活動を調べて比較を行い、考察と提案をすることを研究として行いました。itdUPM は SDGs を目標とし、ファシリテーターとして活動する研究機関です。主な研究として持続可能な開発の実施と、パートナーシップを築きながら持続的な開発を行う手法があります。それらを滞在中に学びつつ、itdUPM と日本の SDGs 研究組織の違いを抽出し、itd への提言を行った。提言内容としては、開発のインパクトを示す際に、インジケーターとして SDGs のターゲットシンボルを活用して表すことで、より広範な人々に理解可能な形でインパクトを与えることが出来る可能性があるという点を示しました。

4. 所属研究室内外の活動・体験

研究時間は特に指定は無かったが、平日は 10:00~18:00 を目安に研究を行った。私が滞在した itdUPM は学生がほぼおらず、大半が研究者であり私よりも一回り年上であったが、皆気さくに接してくれた。ランチは毎日ラボメンバーととり、大半の人が自炊していたので私も自炊して学校に持って行った。皆とコーヒブレイクを取ったりして、いい関係を構築しながら研究することが出来た。たまにラボメンバーや関係者と飲みに行ったりもして、明るいラテン文化の一面を実感できた。毎週火曜日の夜にはラボメンバーとその他関係者が作ったサッカーチームのメンバーとして公式戦に出場できたことは、とても楽しく、サッカー文化であるスペインの日常を楽しめた。また、スペインの文化として金曜日は午前で仕事が終わるため、金曜午後を含めた週末はスペイン国内や近隣諸国に旅行へ行った。同じ SERP プログラムで UPM に行った江藤君とミンジュさんとも頻りに飲みに行ったり旅行に行き、公私両方充実していた。



Fig.3 サッカーメンバー



Fig.4 itdUPM のメンバー



Fig.5 ベルナベウ (レアルの本拠地)



Fig6. スペインの市場での飲み会

5. 留学先での住居

最初の1週間は大学の近くのホステルに滞在しながら宿を探した。その後、大学に近いクアトロカミノスという、東京でいうところの大江戸線のような地下鉄の駅の近くの宿を確保した。4人でのシェアハウスで一カ月の賃料は550€, 光熱費が50€であった。マドリードの中では安くはなく高くもないといった賃料であった。マドリードの住宅事情は良いとは言えなく、シェアハウスがスタンダードである。個室のベッドや勉強机以外は全て共用であった。宿は Idealista という家主と借り手を直接繋げるサイトを利用した。100件ほど見学を申し込んで2件対応してもらえた。3カ月間の外国人の滞在となるとかなり家探しは難しかった。海外慣れしていない人にとっては少しストレスがたまるかもしれない。

6. 留学費用 (渡航費、生活費、住居費、保険料) など

渡航費：キャセイパシフィック航空で往復12万円ほど

保険料：3カ月で31,680円 (AIG 損保, Iプラン)

部屋代：入出国付近のホステル滞在 15,000円 宿代1500€ (三か月分)

生活費：食費は2万円ほど。スーパーの食材はとても安い。

7. 今回の留学から

今回の留学の目的は海外で主体的に研究を行い、不自由な環境においても物事を遂行して成果を出す経験をして成長することと定めていた。結果として、専攻分野と異なる分野の研究を、スペイン語圏の国でやりきることが出来、成功の体験とそのプロセスを学んだ。大袈裟な表現を用いたが、社会で活躍するために必要な地道な努力、真摯な取り組み、人に好かれる力等の基本的なことが大切であると改めて学んだ。itdUPM は様々なステークホルダーと協業しており、彼らと行動を共にすることで頭でっかちにならず、他者との協業を行い、柔軟な行動をすることの重要性を学ぶことが出来た。また、英語に関しては不安があったものの、研究をやり遂げることが出来、自信がついた。非ネイティブの会話では、相手を理解し

ようという姿勢が何より大切であると学ぶ事も出来た。留学に行きたいと感じる方がいらっ
しゃったらとりあえず応募してみることをおすすめする。留学に行って後悔したという人
を見たことがありません。

8. その他

・ビザについて

短期であっても就学ビザをとって留学されることをお勧めする。理由として、ビザがあると
スペイン居住者の証明ができるため fintech 系のサービスが利用でき、とても便利であるか
ら。ショッピングはカード決済できるが振込はビザがないと面倒。ビザがあると Revolut 等
で宿代やその他の振り込みを行う際にスマホ一つでできる。

また、日程に余裕がある方はビザを取っておくと長めに滞在ができるため、研究が始まる前
に滞在をして慣れておく事もできる。